

諏訪小だより

令和6年3月22日
3月特別号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

御礼

校長 齋藤幸之介

先月は気温がぐっと上がり、春の訪れは相当早いのではないかと、思わせるほどでした。先日5年生がスキー教室を行った富士見高原スキー場も短期間ではありましたが滑走不可となりました。しかし、3月に入ると一転して気温がぐっと下がり、雪が降った日もありました。また、台風並みの暴風が吹いたこともありました。新しい季節を迎える前の不安定な状況を例年以上に強く味わっているかもしれません。

しかし、先日もお伝えしたかと思いますが、すでに紅白の花を咲かせ、その後薄桃色でにぎわい始めた本校にある多くの梅の木々は、私共に春の訪れを伝えています。

そんな季節を迎えた今、諏訪小学校は令和5年度の教育活動を全てを終了しようとしています。

5月に新型コロナウイルスの扱いが変わり、今まで少しづつ元に戻ってきた学校生活がさらに大きく舵を切ったかの如く多くを取り戻してきました。全校及び各学年で行われる予定であった行事は滞りなく行うことができました。

しかし、一方で、今まででしたら「季節外れの」と申し上げてよいかもしれないインフルエンザが蔓延し、2回の学校閉鎖を行わざるを得ませんでした。特に、運動会直前の流行には正直頭を抱えざるを得ませんでした。しかし、多くの方々の御助言を得ながら、思い切った判断が求められました。全ての子供たちの思いは叶えられませんでした。予定通りの実施に至りました。再登校後たった1日を挟んでの本番でしたが、ここには、本校教員が日頃から注意深く指導をし、特に運動会の全校練習を始めとする準備を行っていたことがありました。大いに救われた、というのが私の偽らない気持ちです。

このように、新型コロナウイルスの影響は表向きは少なくなってきたようですが、しかし、今年度のインフルエンザのように今度は形を変えて私共に襲いかかってくるかもしれません。「パンデミックの再来」を危惧する声も最近特によく聞きます。

万が一のことがあったら、それでも今の子供たちは強みをもっていると思います。それは、今年度を含めて4年間苦しめられた経験があるからです。先が見えないこともあります。何に気を付けていくべ

きか、を判断し、また、利他という言葉を始めとした周囲の人々を慮ることは、今回のことを教訓としてずっと適切に行える、と考えています。私は先日の全校朝会でこのことを子供たちに伝えました。皆様はどうお考えでしょうか。

先週は、6年生が鶴牧西公園から大谷戸公園までを歩きました。日本一長いと言われる遊歩道を実際に歩くことを通して「多摩市のよさ」を味わい、そして自分たちが住む地域を今後どうしていくかを改めて考える契機としました。卒業間際に、と言う声も聞かれる中、「卒業式が終わって門を出るまでが学習」を実際に示した90名を誇らしく思っています。

来年度は本校開校30周年となります。単にお祝いムードを盛り上げるだけでなく、地域の変遷や地理的な特色、そして学校の歩みを全校で学びながら子供たちが本校への愛着を一層強くもてるようにできれば、と考えています。

ここに至る前で、皆様には多大なる御理解と御協力を賜りましたことを御礼申し上げます。25日には在校生を代表して出席する5年生がこれまでの感謝と門出を祝う中、6年生が立派に卒業するように本年度最後の行事を挙行いたします。

すでに報道等で発表があった、令和6年度4月1日付の退職・転出教員をお知らせをいたします。なお、他の教職員の転出及び転入の教職員については4月にお知らせをいたします。

退職

飯島 聖江主任教諭 6年(来年度は本校新人育成教員)

異動

中島 美恵副校長 5年 八王子市立清水小学校

溝口 哲 主任教諭 6年 多摩市立瓜生小学校

橋本 紀子主任教諭 2年 多摩市立愛和小学校

小倉 由里主任養護教諭 5年 多摩市立永山小学校

細谷 彩夏教諭 6年 渋谷区立本町学園小学校

竹内 敏之教諭 6年 世田谷区立松原小学校

(主任教諭として)

小林 愛弓教諭 6年 世田谷区立京西小学校

横山由紀子教諭 3年 八王子市立恩方第一小学校

(※数字は本校在職年数)